

開催日：平成30年6月5日

○病床機能報告結果

- ・2017年の病床実数819床に対し、2025年の必要病床数は659床と、160床の差が生じているが問題はあるか。
 - 「必要病床数に対し、稼働病床数が多いため、今後削減をしていく」ということではない。2017年と2025年を比較すると慢性期は148床多いが、療養病床から介護医療院に転換すると、病床機能報告上の病床扱いから外れ、その分慢性期の数字は下がる。こうしたことを踏まえると、今後自然と2025年の数値に落ち着くと考えている。
 - 「介護医療院は病床でない」というのは、あくまで、病床機能報告上の話。基準病床数、既存病床数の制約では、病床としてカウントされる。そのため、今後介護医療院化されても、病床機能報告上の病床数は下がるが、基準病床制度上は下がらない。

○非稼働病床の対応方針

<伊豆今井浜病院>

- ・当院で患者数を増やすことのできなかつた要因は、看護師の採用が進まなかつたためである。
- ・現在は法人からの派遣により看護師の配置が改善され、患者数も改善されている。
- ・4階リハビリ棟では、脳卒中患者のリハビリに必要な言語聴覚士を配置できなかったことで、脳卒中患者の入院期間を短かくせざるを得ず、患者数の伸び悩みの要因にもなっていた。
- ・看護師同様、法人から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を派遣してもらうことで、リハビリ治療の充実により患者数の増加を図る。
- ・医療スタッフの確保が一番の課題。医療スタッフの数の関係で、ある程度入院患者の受入を制限せざるを得ない状況であり、決して入院のニーズがないわけではないと思っている。地域全体で支援をお願いしたい。

<熱川温泉病院>

- ・当院には言語療法士の資源はある。他病院への貸し出しは不可だが、地域の訪問や集会へは出しており、研修も可能かもしれない。リハビリ資源で協力できることはあると思うので、今後相談させてほしい。
- ・当院では、看護師の入退職が激しく定着するのが難しい状況である。

<西伊豆健育会病院>

- ・当院の運営法人では、看護学校に奨学金を出すなどにより看護師の確保を図っている。
- ・中国人看護師を昨年より採用している。昨年は3人、今年は4人を採用したが、非常に優秀。漢字のハードルが一切無いのは大きい。

○賀茂地域健康寿命延伸等協議会における取組状況

<歯科医師会>

- ・歯科医師会としては、チラシ配布など食育に関して何ができるかを考えている。具体的には、今後検討していくが、協力させて頂きたい。

<健康保険>

- ・賀茂の被保険者は県内でも健康状態があまり良くなく、一人あたりの医療費も非常に高い状況である。
- ・協会けんぽ加入者の多くいる現役世代の、健康づくりや重症化予防が極めて重要と思っている。協会けんぽとしても、国保に重症化した住民を渡さないことを目標に、賀茂地区を重点地域として、今後力を入れていきたい。

<下田市の取組>

- ・特定健診受診率は2016年が30.5%と、賀茂圏域の中でも最低。市なりに健診受診勧奨をしているが、数字で見るとまだまだ足りないと思う。
- ・下田市では、6～8月が特定健診の時期。その後未受診者を掘り起こし、個別通知等により再度受診勧奨を行っていかうと考えている。
- ・かかりつけ医、かかりつけ薬局からのチラシの配布や、通常かかっている患者のデータを頂く等、病院や診療所には今まで以上に協力をいただき、重症化予防に取り組んでいきたい。

○地域医療確保支援研修体制充実事業

<退院支援ルール>

- ・熱海医師会で退院支援ルールを作ったが、診療報酬改訂をみてから運用を始めることになった。
- ・多くの県ではほとんどできているが、静岡県はほとんどできていない。
- ・急性期、回復期を過ぎ、どのように地域、施設へ行くのかの筋道を各地域で作ってほしい。

<非稼働病床の扱い>

- ・地域としてどういう使い方で病床を使うか、調整会議で議論いただきたい。

<公立公的病院の改革プラン>

- ・地域のあり方とあっているのか、調整会議の中で議論をしてほしい。
- ・公立公的病院が、地域で必要な医療を提供しているか、しっかり議論が必要。

<病床機能報告>

- ・県によっては、国の数値と乖離しない所もある。(病院側の報告のとらえ方で乖離が生じることがある。)
- ・病床数だけでなく、稼働率まで見たときに、本当に必要な病床数なのか。将来の人口構成をみて、医療従事者数、介護も含めて追いついていくのか。各病院として、どのように改革プラン(未来予想図)をかいているのか。地域の実情とあっているのか。

<住民の意識啓発>

住民の意識啓発が各地域で必要。

- ・ 地域住民がどのように考えているのか。
- ・ 自分たちの健康、医療を守っていくのか。
- ・ 介護受けられる環境をつくっていくのか。